

板橋区長期基本計画審議会(第4回)意見メモ一覧

No.	分野	意見
1	産業	商店街は買物だけの場ではありません、健康、スポーツ、福祉、教育(小中学校、大学)などともコラボして、人が集まる場となるよう、アイデアが必要です。ありきたりのアイデアでは改善できないような気がします。
2	産業	○企業の力は人財です。生産年齢人口が少なくなっているため、人財の育成と健康が必須となります。過去の成功事例では未来を描けない時代なので、新しい人財のための社風づくりを、区が斬新なアイデアでサポートすべきだと思います。 ○医療分野は医療機関を含めて充実しているため、「健康増進産業のまち」で有名にしてほしいと思います。タニタのような企業の誘致を希望します。これからの産業になると確信します。
3	産業	商業も工業も農業もすべて「振興」というのは、「あるべき姿」としては良いのですが、それを「施策」にすべておろすのは「欲ばり」ではないでしょうか。
4	産業	○同じ街道筋商店街として、仲宿商店街(不動通りと本町を含む広い意味での)と品川商店街を思い浮かべました。両者とも高齢者のグループが史跡巡りを楽しむ様子を見かけますが、品川のほうがその姿が多いように感じます。 ○品川には「品川宿交流館」があり、訪問者の休憩所になっています。仲宿では観光センターがありますが、場所がややわかりにくく立ち寄りグループも少ないようです。 ○仲宿も品川のように史跡巡り高齢者を対象とした、積極的な対応策を考えたらどうでしょうか。そして板橋ならではの「お土産・名産品」を扱うことで、日常生活品を扱う商店街としての性格に観光地としての性格が加わり、個性のある商店街ができそうな気がします。
5	産業	○産業構造審議会で提言された今後の新成長分野の一つに、ヘルスケア産業が示されているようです。 ○板橋区内には日本大学と帝京大学の二つの医学部が存在しますので、両者と連携してこの分野での新規の創業ができないでしょうか。 ○ハード分野ではインフラの有無が制限要因になりますが、ソフト面での新しい試みを検討することは可能ではないでしょうか。
6	産業	○区内の経営耕作面積の逓減は、住宅面積の拡大の裏返しで、ある意味当然の流れであり、やむを得ないことだと思います。23区内は住宅地として見て、都下近郊の農耕作地域と役割を分担すべきではないでしょうか。 ○その意味で、区内農業の「振興」をあえてうたうことに違和感を感じます。それよりも、せっかく残った耕地を、区民農園として利用することに力を入れていただきたいと思います。
7	産業	○創業支援(スタートアップ事業)で育成した企業が、他区に出てしまいます。新河岸地域には、空き工場・倉庫があるので、リンクさせ、空き工場等を埋めたらどうでしょうか。少なくとも創業支援は3年継続が必要であり、家賃補助をしても、いてもらった方が良いでしょうと思います。 ○工業専門地域に住居が建たないような仕組みづくりが必要です。
8	産業	○農地が活用されていると感じる人は10%です、都市農地が果たす役割は重要であり、区民周知の徹底が必要です。 ○さつきフェスティバル等を開催していますが、さつきの育て方、剪定等々、板橋区独自で行っている技術の保存と区民に知ってもらう宣伝の徹底が必要です。
9	産業	区内各駅の乗降客数は5~10万人/日。駅から半径500m以内の商圈を解析すると、駅前商店街の店舗の賃貸の単価が相場に合っておらず、高すぎてバラエティーに富んだ店が入れないのが現状です。10年以内には、建物の建て替えが始まります。店舗2階に自宅があるオーナーの住居や、2階に上がるための入り口設置への助成、規制とあみかけなど、計算してストーリーをもって立案する必要があると思います。

No.	分野	意見
10	産業	「志村みの早生大根」に頼る農業政策なのではないでしょうか。ふれあい農園会と農業委員会のイメージや雰囲気を変える必要があります。
11	観光	スポーツ大使等がいるので、同じように観光大使を設置して、区全体として盛り上げてほしい。
12	就労	女性の社会進出というが、その条件整備が不足しています。特に板橋は医療機関が多く、看護師募集はどこも年間を通じて行われています。福祉施設においても看護師をはじめマンパワー不足は深刻です。女性の方が持つ専門性、技術を発揮できるような支援体制を位置づけてほしいと思います。
13	消費生活	○一人暮らしの高齢者が増えています。悪質商法や振り込め詐欺被害から、高齢者の消費生活を守るために、「見守り制度」「消費生活相談体制」の充実が必要だと思います。 ○消費者教育の視点から消費生活講座を充実してほしいと思います。区民の学習機会を多く設けることで、消費生活を見直すことや消費者自身が課題解決に役立てることができます。また、「消費生活の安全・安心」にもつながります。
14	文化	○美術館と郷土資料館の入館者数は「概ね横ばい」と報告されていますが、通減傾向とみてよいのではないのでしょうか。両施設とも区の西外れにあり、交通の便が決して良いとは言えません。足腰の弱い高齢者には行きにくい所でしょう。 ○発想を変えて、施設から出向いたらどうでしょうか。出張展示です。それに展示説明と講演会をセットします。テーマを決めて、区内数か所で実施すればよいと思います。 ○知識欲の高い高齢者が増えているのではないのでしょうか。グリーンカレッジ(教養課程)は毎回満席です。待ちではなく攻めの方策で、情報をわかりやすく提供する努力が求められるのではないのでしょうか。 ○ちなみに、郷土資料館見学の経験がある、街歩きを趣味とする区外の高齢者に話を聞いたことがあります。観光センターを郷土資料館と勘違いされていました。広報が十分ではないようです。
15	文化	和太鼓など、音響を伴う文化芸能活動の練習場所の整備が不足しているほか、文化会館の音響設備はクラシックなどのプロの演奏者にとって不十分です。設備が充実すれば、結果的に区民に良質な文化を提供できると思います。文化のまちとして、音響設備の改善で文化の水準を高めてほしいです。
16	文化	○継承は後からついてくるので、文化・芸能の保存・保全だけではなく、創造性と芸術性の向上に行政がどう関わるかが課題となります。欧州のように、公的資金で芸術振興するのか、あるいは民間企業によって文化の水準を上げるのか、区の方向性を決めるべきです。 ○区と財団は、場の提供や助成など、どうすれば創造性が向上するのか、議論が必要だと思います。
17	国際交流	区民と行政の方が英語ではなく、英会話をもっと簡単に学べる制度や仕組みが必要です。
18	国際交流	○区内の外国人居住者数に比して、支援策の実績数(日本語教室受講者数)が少ないです。具体的にどのような方法で実施されているのかわかりませんが、もっと広報する必要があるのではないのでしょうか。 ○併せて、町会行事に参加してもらおうとか、地域行事への参画を勧めたらいかがでしょうか。夏祭りで一緒に神輿を担げば、話も弾むでしょう。ざっくばらんな話ができれば、一部の外国人に見られるマナー違反について「教える」こともできるのではないのでしょうか。